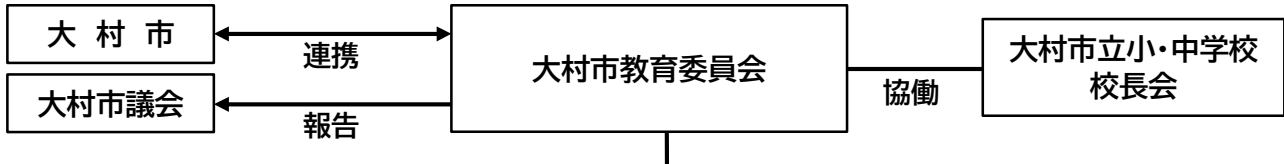


資料I

「ミライはつなぐ学校教育プロジェクト」推進組織図



【実現したい姿】
 ○多様性が包み込まれ生かされる(ダイバーシティ&インクルージョンベースの)環境において、児童生徒一人一人が自分の持ち味を生かすことができる学びの環境を選択できる。
 ○市内のどの学校に通学しても同水準の教育を受けることができる。





令和4年度から開始した「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」についてお知らせします。



多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を発揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして

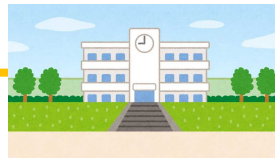
近年、DEI(ダイバーシティ、イクイティ、インクルージョン)という考え方が広がりつつあります。人それぞれの違いを認めるダイバーシティと、全ての人を対象として受け入れるインクルージョンを考え方の基盤に置き、一人一人スタート地点が異なるからこそ、個人に合った(異なる)支援を行うという公平性がある社会です。そして、そのような社会の担い手となる子供たちの学校教育環境も DEI の考えに基づいて見直していきます。

Diversity ダイバーシティ 多様性
Equity イクイティ 公平性
Inclusion インクルージョン 包摂性

「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」は、その見直しを行う3つのプロジェクトから成っています。

学校規模の適正化

- 学校規模の適正化を図ることで、市内のどの学校に通学しても同水準の教育を受けることができるようにします。
- また、各学校の教育の質の向上につなげます。
- 学校を核とした地域コミュニティの活性化につなげます。



3つのプロジェクト

背景・現状

- ▲市内には県内最大の大規模校から極小規模校まで存在しており、適正規模の学校と同水準の教育活動が行いにくくなっています。

中学校統一型制服の導入

- 性差によらない新しい標準服を導入することで、受容性の高い学校環境を作ります。
- 学校間の価格差を是正します。
- リユース(再利用)を促進します。
- 広く意見を求めながら検討し、ふるさと大村を愛する心の育成につなげます。



背景・現状

- ▲市内の中学校の制服は、男女の性別によって指定されています。
- ▲セーラーやスカートは、冬場の体温調節を難しくしています。
- ▲学校間の価格差が最大1万円程度あります。

自信を持たせる学習評価の実施

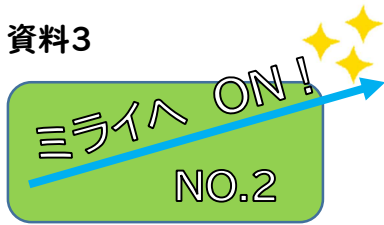
- 子供たちが自信を持つような学習評価の方法を研究します。★★★★★
- 通知表にみられる評価(○、空欄、△)や評定(5、4、3、2、1)を判定する基準などを市内でできる限りそろえることで、学習評価の客観性と信頼性が保たれるようにします。



背景・現状

- ▲目標に基づく評価の考え方や、発達障害や不登校の子供の評価の在り方が、未だ十分浸透しているとは言えない状況です。
- ▲評価の基準が異なるために、通う学校によって評価が異なる事例があります。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学校規模	有識者会議、方針検討	方針決定、検討委員会等	周知説明会、移行準備	移行&検証
統一型制服	検討委員会、方針決定	新制服決定、説明会、販売	導入&検証	
学習評価	教員チームによる研究	実施&実践研究・改善		



Diversity(多様性)Equity(公平性)Inclusion(包摂性)

多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を發揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして

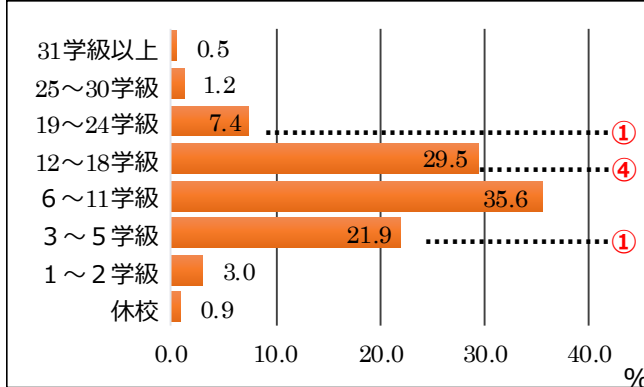


学校規模の現状は？

(令和3年度文科省実態調査から)

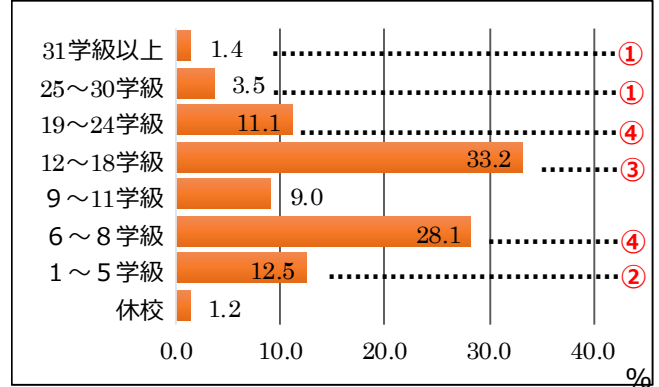
全国 9,157 中学校

※○数字は市内の校数



全国 19,055 小学校

※○数字は市内の校数

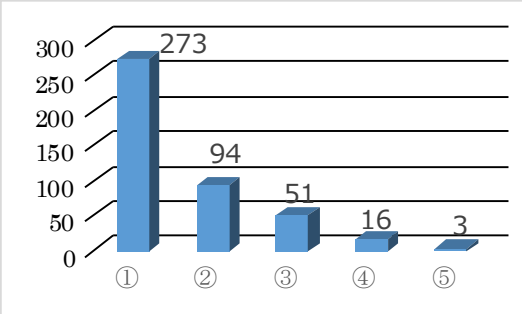


法令による適正規模は、小・中学校共に「12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」と弾力的に捉えられるようになっていきます。

また、多くの自治体では、少子化に伴う小規模校の適正化であることに對し、本市では極大規模校から極小規模校までの学校が幅広く存在しており、今後しばらくは児童生徒数が大きく変化しない状況にあることにも留意しながら適正化を検討していく必要があります。

学校同士の統合

令和3年度文科省実態調査によると、過去3年間に全国で次のとおり統合事例があります。



- ①小学校同士 ②中学校同士 ③その他
- ③義務教育学校(小・中統合)
- ④施設一体型の小中一貫校(小・小、中・中 含む)

この場合、「地元の学校がなくなる」「児童生徒によっては通学距離・時間が長くなる」といった課題が生じます。

費用の面では、人件費や学校施設の管理費が下がる一方で、校舎の新築・改修等の整備、駐車場や通学路の整備、スクールバスの運用等に多額の費用がかかるといった面も見られます。

さまざまな方法があり、参考となる先行事例も数多くあります。これから各方面のご意見を伺いながら、有識者会議等も行い、検討を進めていきます。

極大規模校の分離

既存の近隣校や新設校に分離する方法があります。

この場合、これまでの同一地域コミュニティも分離につながることや校舎建築・改修等に時間を要するといった課題があります。

特別転入学の状況 R3

学校	黒木小	松原小
校区児童	16	99
転入児童	5	14

どんな方法があるの？

特別転入学制度の拡充

本市で導入している特別転入学制度(市内全域から通学可能とする学校選択制の一部導入)を一層推進する方法があります。

現在、少人数で特色のある活動をしている黒木小と松原小で制度を導入していますが、学級数が増えるまでの転入希望者がいないため、適正化につなげる方法としては十分ではない状況です。

一層の特色化を図ったり、対象校を増やしたりすることが考えられます。



通学区域の見直し

通学区域(いわゆる校区)を見直す方法です。

境界線を変更したり、学校を選択できる区域を設けたりすることで、大規模校の児童生徒数を減らし、小規模校の児童生徒数を増やすことができます。その際、区域ごとの人口の推移、町内会等既存のコミュニティ、住宅地等、さまざまな状況を考慮しながら検討する必要があります。

この場合も、既存のコミュニティの分断や、居住地と学校所在地が異なることによる地域所属感の希薄化等の課題が生じます。



Diversity(多様性)Equity(公平性)Inclusion(包摂性)

多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を発揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして

4 質の高い教育をみんなに



持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択され、2030年までに達成することを目指しているものです。

この17の目標の一つに、「**目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワメントを行う**」があります。エンパワメントとは、一人ひとり本来すばらしい力を持っており、その力を最大限に発揮していこうという考えです。

この実現のために、日本政府はもちろんのこと、さまざまな会社や団体、国民一人一人に至るまで自らが取り組めることを決め、実践していく気運が高まっています。

性別によらない中高生の制服の導入も、この取組の一つといえます。

中学校統一型制服の導入によって実現したいこと

昨年度、中学校校長会が中心となって「大村市立中学校新標準服検討委員会」において、このことについて研究・検討しました。

その検討結果を参考にしながら、本年度からは市教育委員会において検討を重ね、令和6年度からの導入を目指します。

そして、導入により次のようなことを実現したいと考えています。

- ①性別で指定されることのない選択できる制服(ジェンダーレス制服)を導入し、多様な中学生の自分らしさを応援します。
- ②制服の生地やデザインなどを工夫して、近年の気温の上昇や室内の空調導入による気温差に対応して中学生が自己調整できるように、またさまざまな活動が行いやすくなるようにします。
- ③丈夫な生地、体の成長に合わせられるデザイン、家庭で洗濯がしやすい素材などを工夫し、3年間着用できるようにします。
- ④統一型にすることで、どの中学校に通学しても同価格で購入でき、市内全体で再利用(リユース)の大幅促進にもつなげます。※これはSDGs目標12に関連しています。
- ⑤スラックス・キュロットを採用し、安全性や防犯度を向上させます。それに伴って、先生たちの生徒指導の仕事も軽減できます。
- ⑥市内にはとても大きな規模の学校から、とても小さい規模の学校まで幅広くあります。これをちょうど良い規模の学校に整えていきますが、通学する学校が変わる場合に制服を買い替えるという問題が発生しません。また、統一型にすることで、いろいろな理由で転校するときも買い替えなくてもよいようにします。
- ⑦皆さんの意見や要望等を取り入れてデザイン化を行うなどすることで、大村に合った長期間愛用される制服にします。

12 つくる責任 つかう責任



現在(市立6中学校)

5校

【男子】詰め襟学生服・ズボン

【女子】セーラー服・スカート

1校

【男子】ブレザー・スラックス

【女子】ブレザー・スカート

〔男女間の価格差〕

あり

〔学校間の価格差〕

1万円程度あり



令和6年度から

全学校

ジェンダーレス制服

〔男女間の価格差〕

なし

〔学校間の価格差〕

なし

(1)男女共通(ユニセックス)タイプ

- ・上着(ブレザー等)は、左前、右前が自由に変えられる。
- ・スラックスは、男女の体型の違いに合わせた、又は逆に違いが出にくいデザイン。
- ・エンブレム等で、学校の違いが出せるようにできる。

(2)組合せタイプ

- ・共通の上着に、スラックスやスカート、ネクタイやリボンを選んで組み合わせる。

ジェンダーレス制服のタイプ

★今号は、主に小中学生向けに作成しました。

○小学4年生から中学3年生までの皆さんには、統一型制服についての考えを教えてください。帰りの会などで、担任の先生に説明をしてもらいながらアンケートに教えてください。

※保護者の皆様には、このことについてのお知らせとお願いの文書を学校から配付しています。アンケートフォームは同じです。右の二次元コードから回答することができます。





Diversity(多様性)Equity(公平性)Inclusion(包摂性)
 多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を發揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして



中学校統一型制服の導入に関するアンケート結果(速報値)

アンケートへご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

- 1 期間 令和4年6月13日(月)～6月26日(日)
- 2 方法 Google Form によるWEB無記名アンケート
 [導入形態、重視する項目は選択式、意見や提案は自由記述]
- 3 対象 小学4年生～中学3年生、及びその保護者、小・中学校教職員
- 4 回答 右の表のとおり

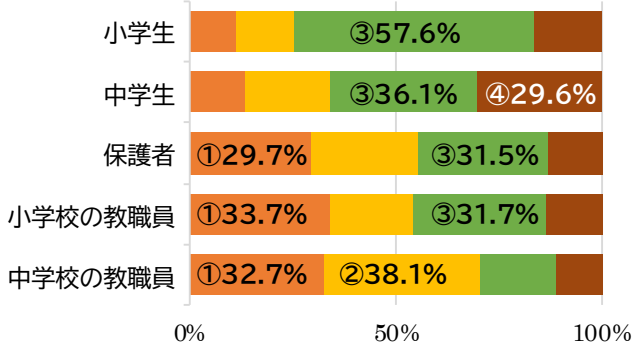


回答者	人数(人)
合計	6,560
小学4年生	900
小学5年生	1,037
小学6年生	1,009
中学1年生	789
中学2年生	716
中学3年生	784
小学生の保護者	398
中学生の保護者	531
小学校の教職員	249
中学校の教職員	147

導入形態

(注)母数の差が大きいため、単純な合算はせず、小中学生、保護者、教職員に分けて集計しました。

- ①全6中学校男女共通(ジェンダーレス)の同一の制服にする。(エンブレムなどで区別)
- ②基本は男女共通の同型にして、学校ごとに異なる制服にする。(学校ごとに選定)
- ③組合せのパターンを複数種類準備し、個人で選択する。
- ④どれでもよい。



このアンケートへの回答者については、小中学生は③「個人で選択したい」という意向が強く、小学校教職員は①「統一」、保護者は①③、中学校教職員は②「学校ごと」を希望する傾向にあるようです。

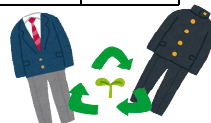
意見や提案

(注)全ての記述内容を確認し、回答を分類しました。

分類1	件数
1 賛成意見	14.0%
2 反対意見	3.2%
3 参考意見	3.3%
4 記入なし	82.9%

統一型制服の導入に**反対の意思表示**をされた方は、回答者全体の**3.2%**(206件)でした。

- その理由の主なものは、次のとおりです。
- ・制服廃止……………1.2%
 - ・今のままが良い……………0.7%
 - ・お下がりできない/
買替だと出費増…0.6%
 - ・学校独自/判別したい…0.4%
 - ・その他一部変更案等……0.3%



賛否に関係なく、記述の中に表れた「キーワード」とそれらをカテゴリー分けした「分類2」を多いものから表にまとめました。

キーワード	%
1 選択	1.5
2 私服	1.3
3 価格	1.2
4 ファッション性	1.0
5 ズボン	0.9
6 学校判別	0.9
7 デザイン	0.8
8 現行	0.8
9 色	0.7
10 スカート	0.7
11 機能性	0.7
12 出費	0.6
13 学校独自	0.5
14 導入時期	0.5
15 付属品	0.5
16 決定方法	0.4
17 半ズボン	0.3
18 ポロシャツ	0.3
19 体温調節	0.3
20 品質	0.3
21 スカート丈	0.2
22 通気性	0.2
23 着易さ	0.2
24 否スカート	0.2
25 透けない	0.2
26 靴	0.2
27 組合せ	0.2
28 洗濯	0.2

分類2	%
1 構成	3.9
2 デザイン	3.0
3 制服廃止	1.2
4 価格	1.2
5 お下がり	1.0
6 学校判別	0.9
7 機能性	0.8
8 体温調節	0.7
9 学校独自	0.5
10 手入れ	0.4
11 決定方法	0.4
12 安全性	0.3
13 スケジュール	0.3
14 買替	0.3
15 素材	0.3
16 着脱	0.2
17 一部検討	0.2
18 靴・靴下	0.2

いずれも貴重なご意見・ご提案をいただいたと考えております。

今後、これらの結果を十分に生かして、検討委員会で協議を重ね、よりよい導入方法を検討してまいります。

進捗状況は、随時お知らせしていきます。

(注)上位の項目を抽出して、表にまとめました。

重視する項目

1位 ■ 2位 ■ 3位 ■

	① 多様な性への対応	② 価格	③ 活動しやすい機能性	④洗濯のしやすさや速乾性	⑥ 寒暖差への対応
小学生	17.3%	37.1%	59.7%	42.4%	50.7%
中学生	31.1%	42.5%	57.8%	42.1%	52.1%
保護者	28.6%	62.2%	48.9%	71.7%	40.5%
小教職員	64.3%	69.5%	54.2%	51.4%	28.9%
中教職員	61.9%	67.3%	42.9%	44.2%	36.7%

3つに絞り切れないというご意見もいただきましたが、上位の項目については、小中学生は毎日着用する者の視点、保護者はお手入れ、購入者、着用者の視点、教職員は教育、保護者、着用者の視点からの回答がうかがえます。

Diversity(多様性)Equity(公平性)Inclusion(包摂性)

多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を發揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして

4

質の高い教育を
みんなに

どんな手順で何を評価しているの？

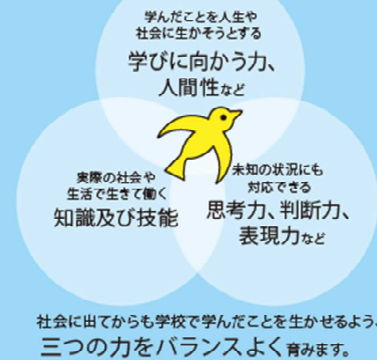
～学校の学習評価のあらまし～

- 各教科には「子供たちに身に付けてほしい能力」が目標として設定されています。
 - 身に付けてほしい能力(=育成すべき資質・能力)は、次の3つの柱で整理されています。
 - ①知識及び技能(何を知っているか、何ができるか)
 - ②思考力・判断力・表現力等(知っていること・できることをどう使うか)
 - ③学びに向かう力・人間性等(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
 - 各学校では、これらの力を身に付けさせるために工夫を凝らして授業を行っています。
 - 授業者は、その力がどのくらい身に付いているか、どのように深まっているかなどを把握し、ひとりひとりの状況に応じて、アドバイス、補充指導、一層伸ばす指導等を行っています。
 - 力を把握(=評価)する資料には、定期テストや単元テストだけでなく、小テストや授業での活動の様子、練習問題の出来具合、レポートや作品、発表内容、班での話合いの内容等があり、できるだけ多くの機会に、客観的な資料を収集しています。
 - 評価の際には、3つの窓口から子供たちを把握します。この窓口を「評価の観点」と呼んでいます。
 - 評価の観点は、次の3つです。
 - ①知識・技能
理解したか、できるようになったか
 - ②思考・判断・表現
課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が身に付いているか
 - ③主体的に学習に取り組む態度
身に付けてほしい能力③のうち「学びに向かう力」の部分で、粘り強く取り組めているか、自分の学習を調整できているか
 - 通知表では、観点ごとに「十分満足できる」「満足できる」「努力を要する」の3段階でお知らせします。
 - 5段階(小学校では3段階)の評定は、観点別の評価を基にして、総合的な学習状況を数字で表したものです。
- ※学習評価を行う際には、他者と比較することはありません。あらかじめ設定した姿にどのくらい近づいているかを評価します。
- ※現在、「自信をもたせる学習評価」プロジェクトチームでは、学校間で1～9の手順や基準等に大きな差が出ないように研究を進めています。

改訂学習指導要領について知りたい

(文部科学省 HP から)

何ができるようになるの？



そのために「何を学ぶか」だけではなく…

どのように学ぶの？

一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に

周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

主体的・対話的で、深い学びへ

①は、知識を丸暗記しているかではなく、関連を説明できるなど深い理解を伴った知識・技能であるかを評価します。

②は、知識・技能をうまく活用したり探究したりする中で、資料などが適切かどうかを判断し、そこから自分はどんなことを考えたのかを他者に発信する力などを評価します。

③は、学習目標の達成に向けて粘り強い取組を行おうとする側面と、自分の学習を調整しようとする側面から評価します。この2つの側面から見える姿は、実際の教科等の学びの中では別々でなく、相互に関わり合いながら現れています。

また、①②の状況を踏まえて評価し、①②に結び付いていない場合は、担任がアドバイス等を行います。したがって、①②と切り離し、単にノートを提出したかだけで評価することは適切とはいえません。

通知表



資料6

学習評価の観点③「主体的に学習に取り組む態度」で評価する「**学びに向かう力**」は、学校だけではなく家庭でも伸ばすことができます。



令和4年7月8日号
大村市教育委員会

家庭でも「学びに向かう力」を伸ばしましょう

学校では、次のような姿を見取り、伸ばそうとしています。

粘り強い取組を行おうとする側面

授業の目標である「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」などを身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行う姿

例えば…

- 初めは解けなかった問題に、異なる方法をいろいろと当てはめながら、あきらめずに、解決できるように工夫して取り組む。
- 自分とは異なる友達の考えや意見をよく聞いて、より良い考えや解決策を作り出したり発見したりしようとする。
- 実験に失敗したり、競技に負けたりしても、手順や工夫をよく考えて作戦を練り直し、うまくいくように工夫を積み重ねる。
- 自分の書いた文章や図を自己評価しながら書き直したり書き加えたりして、レポートや新聞を分かりやすく仕上げようとする。

【図画工作の例】作品づくり

うまくいかないところを見直して材料や道具を変更したり、より良いものを目指して作り直したりする姿



自らの学習を調整しようとする側面

粘り強い取組を行う中で、自分の学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤する姿

例えば…

- 疑問や課題を解決する見通しを立てたり、学習を進める中で必要に応じて解決方法を修正したりする。
- 友達と協働して、正解やより良い考え方、より良い解決方法を見つけようとする。
- 学習の中での判断や導いた結果が妥当かどうかを吟味したり、自分の学習の足跡(記録)を振り返ったりする。
- 課題を解決した後に、新たな課題を発見したり、更に問い続けたりする。



【体育の例】鉄棒の授業

きょうは何がうまくできて何ができなかったのか、補助器具なしでするにはどうすればよいかなどを考え、次の練習に生かす姿

学校では、授業で各教科の内容を学ばせながら、子供たちに「**学び方(学ぶ方法)**」を身に付けさせています。

私たち大人もそうですが、社会に出てから「何かを学ぼう」「問題を解決しよう」とする際には、知らず知らずのうちに学校で身に付けた「学び方」を基に対処していることが多いものです。

子供たちが、家庭で学習する際にも、同様に学校での学び方を再現し、時には繰り返すことで強化し、時には未知の課題解決に適用して自分のやり方にアレンジしています。

小学校の算数は教えられるけど、中学校になると難しく教えてやれないんですね～。



中学校の三者面談でよくお聞きする保護者の方のお気持ちです。

学習内容を教えるのは学校にお任せください。家庭では、できれば勉強しているお子さんのそばにいて、「きょう学校で何を勉強したの?」と質問し、お子さんに説明させてみて、その説明に対して「そうなんだ」「なるほどね」「面白いね」などと返すことが、お子さんの「**学びに向かう力**」をはぐくみます。

学校で学んだことや身に付けたことを、お子さんが家庭学習や日常生活に生かしている姿があるはず。それを見つけ、「がんばってるね」「できたね」などの「**認める**」言葉をかけ、励ましましょう! また、お子さんから教わることも多いのかもしれない。